



埼玉県立
浦和高等学校
同窓会会報

〒330-9330
さいたま市浦和区領家5-3-3
浦和高校同窓会
☎048(886)0805(直通)
048(886)0805(FAX)
048(886)3000(浦高)
urako-ob@u.email.ne.jp



麗和



秋間伐



夏下草刈り



春植栽



発刊50号記念

特集

「それぞれの浦中・浦高」

6

「天下の浦高復活」と

「森づくりの推進」

2

会長 川本 宜彦

「浦和高校、この1年」

3

校長 前島 富雄

目次

未来の森に夢を託して

4

会計報告・事業報告

5

麗和セミナー

18

学校は いま

20

人事異動・進路状況・部活動報告

同窓会の動向

22

地域同窓会・職域同窓会・ゴルフ会

事務局通信

24

振り返れば、
そこに古河マラソン

平野 哲郎 (高40)

浦高に入学して早々、新
入生歓迎マラソン大会が行
われた(そもそもなぜマラ
ソンで歓迎されるのか?)。
そこで無惨な結果に終わっ
た私は、文化部長屋の住人

となることを選び、英語部
に所属してホイットキフト
校の忍者好きな女の子と文
通しつづき新聞雑誌部に出
入りして「礎」や「浦高
ばなな」などにせつせと匿
名原稿を書いていた。
しかし、文化部とはいえ、
古河マラは完走しなければ
ならないと秘かに雪辱に
燃える私は、秋になると放
課後一人体育着に着替え、
駒場運動公園などを走り回
っていた。しかし、私の記
念すべき初古河マラは、最
後の関門である栗橋でリタ
イアという屈辱的な結果に
終わってしまった。

その屈辱を晴らすべく、
翌年は、新たに完成した浦
高周回ランニングコースを
走り込み、ようやく完走を
果たすことができた。走り
ながらかじったレモンがと
ても甘く感じられた。古河
マラのおかげでその後どん
なにしんどいときも、「あ
れに比べれば」と思っつて耐
えられるようになった。
ちなみに卒業4年後に、
同級生が集まって飲んだと
き、意味もなく、深夜、池
袋から東京駅まで歩き通し

たことがあったが、あれも
古河マラを経験した浦高卒
業生ゆえの行動だったのだ
ろうか。とにかく浦高が浦
高たるゆえんはやはり古河
マラである。文化部の諸君
も是非完走目指して頑張っ
てほしい。